

今年度の研修を振り返って ～1人1台端末の利活用の促進を目指して～

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

1 県総合教育センターの研修事業

GIGA スクール構想の実現に向けた児童生徒への1人1台端末の配付により、各学校では、試行錯誤しながら取組が進んでいることと推察される。メディア教育担当でも、感染症対策に万全を期しながら、学校教育におけるICTの効果的な活用と教員の資質・能力の向上を図るための研修を実施してきた。

希望研修では、表計算等情報処理に関する五つの研修とGIGA スクール構想の実現に向けた次の七つの研修を実施した。

- ①情報端末と Google Workspace（旧称G suite）活用
- ②iPadと Google Workspace（旧称G suite）活用
- ③PCと Microsoft365活用
- ④情報モラルと著作権 ⑤オンライン授業
- ⑥授業動画活用 ⑦小学校プログラミング

どの研修も大学で専門的に研究をされている教授等の講義を受講でき、最新の専門的な内容を学ぶことができた。①～③は、各OSのインストラクターから操作・活用スキルを習得し、クラウドを授業や校務でどのように活用していけるかを教員同士で検証し合い、勤務校での実践につなげた。④は、情報活用能力に含まれる「情報モラル」を各教科等横断的・体系的に指導していくことの重要性や授業目的公衆送信補償金制度等、著作権について学ぶ機会となった。⑤は、教員同士でオンライン授業を行う際の視点を検証し合い、トライアンドエラーを繰り返しながら模擬オンライン授業を実施した。⑥は、授業内で活用する動画を想定し、実際に動画を撮影・編集した後、動画を活用した模擬授業を実施した。⑦は、小学校の各教科で行われているプログラミングについて、ICTを活用した演習

を行い、指導案検討後に授業実践をした。

研修後のアンケートでは、全ての研修で90%以上の満足度（⑥⑦については、100%）を得た。教員同士が情報交換や活用場面を想定して端末を操作するなど、対面での有用性を生かした研修となった。

2 学校支援事業

各学校や市町村では、端末利活用において様々な悩みを抱えている。そのようなニーズに応えるべく、出前リーダーサポート塾や要請に応じた学校支援事業を行っている。

ここで、9月に実施したいすみ市の研修について紹介する。いすみ市は、4月から毎月、市教育委員会の主催で小中学校の情報主任を対象にTeams研修会を行っている。研修の事前アンケートでは、校内での活用不安が多いことが分かり、「情報主任として校内でどのように広めるか」をテーマに授業や校務での活用につながる演習を多く取り入れた。教員もクラウド活用のメリットや協働学習のよさを実感でき、より熱量にあふれた実践的な研修となった。今後、各学校で工夫された実践がさらに広がることを期待したい。

3 次年度への展望

できることを広げ、より良い活用方法を追求める「精選期」である次年度は、更なる情報教育と授業の質の向上を図る必要がある。県内の児童生徒の学びを等しく保障できるよう遠隔授業等学びの広域化を進め、学校現場での課題解決のヒントとなるような研修や学校支援の充実に努めていきたい。

また、各学校においては、常に最新の情報を得ながら、失敗を恐れずにいろいろな場面で活用する体験を積み重ねていただきたい。